



東海地区信用金庫協会 近藤 実会長インタビュー

地域に根ざしたきめ細かい対応で
信用金庫の使命を果たしていく

近藤 実 (こんどう みのる)
昭和46年1月、西尾信用金庫入庫。平成9年5月、同庫理事。20年1月、同庫理事長(現任)。28年5月、愛知県信用金庫協会会長(現任)。令和2年6月、東海地区信用金庫協会会長。

新型コロナウイルス感染症が再度広がり始めており、多くの産業も影響が出始めている。これまでとは全く違う時代に入ってしまったと言っても過言でない。これまでは企業を近い距離でサポートしてきた信用金庫業界だが、これからの時代に果たすべき役割などについての話を東海地区信用金庫協会会長に就任した近藤実氏に聞いた。(聞き手/中部財界フォーラム社代表取締役 塚本隆)

——御就任おめでとうございます。

近藤 いろんな意味で非常に厳しい状況ですが、地域の皆さんに信金そのものをご存じのようでは知られていないので、もっと身近な存在として知ってもらえるようにしたい。そしてそれぞれの金庫が発展するよう業界のために毎日考えなきゃいかん、と思っています。

——コロナ禍で今まで以上に信金の果たす役割は大きかったと思います。現在の状況認識は。

近藤 当地区は製造業が多いと言われていますが、特に愛知県は。とは言っても三重、岐阜、静岡などは観光関連企業も多く、その影響はどれだけ厳しいか計り知れない。どの産業も厳しいが、なかでも小売業・飲食業は小規模零細企業が多く廃業されてしまわないか心配。何とかこの危機を乗り越えてもらわないと。諦めてしまわないように応援したい。我々は中小零細企業が一番のお客様なので何とか持ちこたえてもらいたい。

——コロナは第2波ともいわれていますが、信金としての対応は？

近藤 依然、感染者は減らない。だが、これ

を当たり前、と捉える一面も必要ではないか。とんでもない異常、とも言われていますが、この中でどう活動していくか、が問われている。自粛したらどうなるのか、経済を動かす事を考えたら感染防止とは違う方向に向かってしまうのか。どう動いたら前に向かっていくのか、考える必要があります。人の命、特に従業員の命が最優先だが、我々の使命は何だ、と言った時、過去の人もいろんな試練を乗り越えてきました。信金の使命を再確認し、使命達成する意気込みをもって対応したい。

——西尾信金としての感染対策は？

近藤 当たり前のように職員の体温測定や手洗いは義務などですが、気を付けないといけないのはサービス業としてお客様に迷惑を掛けない行動を自分たちで考えること。これをどう自覚してくれるか。これがスタート。すると3密は避けないといけない、さらに……となる。これが広い意味でコンプライアンス(法令順守)に。感染は罪、ではなく感染しない最善の努力が必要なんです。次いでフロアごとの対策として、例えば事務棟には外来客は入らず、1階の

フロアで対応するとか動線分離などになってくる。テレワークも自宅で仕事、ではなく場所を分離して行う、など。今、発注していますが、ATMコーナーなど各コーナーすべてを抗菌処理します。検温器もさらにいいものに替えます。商談場所も一定の場所に限らせてもらうなど、が当たり前になります。10年前、新型インフルエンザで対処した方策をコロナ対応に替えるのです。同じウイルス対応ですから。当たりの感染症対策だと見据えて対応すべき、と思っています。

——信金協会としてのこれからの主な取り組みは？

近藤 企業の課題解決の中で事業承継が一番大きいようですが、全国組織の全信協もいろいろ手当てしているので、地区協会としてはそれを基にいかを広げていくか、ですね。また東海地区の特徴は製造業が多いこと。そしてそれらの先で間接部門の人材、特に中間管理職が不足していることです。信金の中央機関である信金中金も紹介してくれますが、人材紹介できる人材育成を当地区としてキチッとやる必要があります。例えば当地区の34金庫が集まって研修する。大手の銀行などは50人100人集めて自前でできますが、専門分野は多人数にならないので、業界で講師を呼んで皆で費用を分担して学ぶ。

また当地区は山と海をマッチングさせる、観光業の取り組みもあります。昇竜道プロジェクトですが、観光産業の課題解決であり、地方創生にも資すると思います。もう一つは一部に限られるかもしれませんが、地域の宝物を紹介し合うこと。西尾なら抹茶とか、そんな取り組みを広げていく。

また当地区に集積する製造業はピラミッドの構成者が多くグループで課題を解決するところも多い。我々としては事業承継もそうですが顧客から相談を受けたらその解決に向けお手伝いできなくてはいけない。人材育成を進めるのが一番大切で、機会をどんどん設ける。企業の海外進出への対応も基本はジェットロなどへの紹

介などになりますが、その手伝いをします。また職員の海外研修も必要。定期的に東南アジア研修や一昨年は役員クラス向けに米国視察も実施しました。信金中金やジェットロなどとのパイプ役として情報提供などを行っていきます。いろんなことにチャレンジしていくしかないと思っています。

——会長としての目標はありますか？

近藤 信金の応援者がどれだけ増えるか、地域の皆さん全部から応援していただけることが夢ですね。数字で表すとシェアが上がることで。とりあえずは触れ合ってみよう、付き合ってみようというきっかけ作りが私の仕事。信用金庫の中小企業の取引シェアは愛知県と静岡県は高い。岡崎、安城は70～85%、西尾も8割近く、。中小零細企業が少なくなれば顧客は減ります。中小零細企業が元気になるお手伝いをすることが仕事、その結果信金ファンが増えてシェアに繋がる。コロナ禍では融資だけでなく持続化給付金のお手伝いなどみんな頑張った。特に名古屋市内は飲食業などが多く、休日返上でした。ただ融資は貸し倒れなど気を付けられないといけない。今は出血を止めないといけないので、ほぼ全てを受付けています。当然次はどう返済するかです。どうしたら売上げを作れるか、どうしたら経費削減できるか、と考えると返済できません。9、10月から、と思っていましたが長引いているので来年に向けて大きな仕事になると思っています。

今回、街のたばこ屋さんまで訪問させていただきました。地域に根ざしたきめ細かい営業を頑張りました。信金の使命です。これを引き続き実践したいと思います。そうすることが業界の認知度も上がるし職員の研修にもなる。これからさらに大変な時期に入るとは思いますがチャンスでもある。これを乗り切った職員はすごく成長すると思います。逆に言えばここで頑張らずにどこで頑張るのか？職員にとって「地域の役に立ちたい、人と接したい」、という入社時の発言を実践するチャンスであり、試練の時と思っています。